



『シャボン玉をふく人』



4年2組  
高橋 香織さん

※たくさんのシヤボン玉を透き通った感じにするのが大変でした。



『くじゃく』



1年  
石橋 卓都くん

※くじゃくをかきました。とってもきれいなはねの色や強そうな足にびっけりしました。



5年2組  
川野 由香里さん

※お花の表情がよく描けたと思います。パツクの間をを目立たなくするのが大変でした。

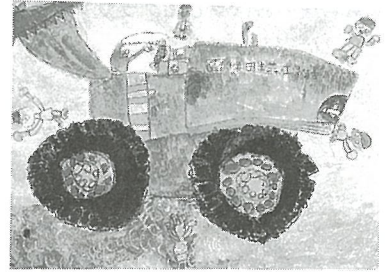


『ひがん花と木戸橋』

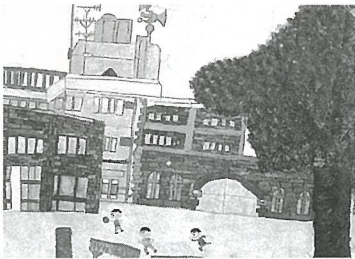


2年1組  
伊藤 淳也くん

※前と後ろのタイヤの大きさをそろえるのが難しかったが、うまく出来ました。



『シヨベルカーとぼく』



『木と校舎』



6年2組  
川島 孝臣くん

※一つ一つ色を変え、でき上がるまで苦労しました。特に木の影を工夫しました。

あつまれ みんなの力作



『ピアノカをふく友達』



3年2組  
仲村 真理子さん

※手の曲がっている様子を表すのが難しかったです。



ひかり俳壇



秋怒濤胸のこだわり濤に消え

(木戸) 川原 淑子

九十九里の荒海に魅せられていたが、吾に返ると胸の支えはずで洗われていた。

叱られてみたき怠惰の昏炬燵

(橋場) 鈴木 都根

恐らく灰になるまで青春を持ち続けるだろう作者に献杯。無粋な筆は置くとする。

物忘れ多き日々なる返り花

(宝米) 鈴木とし子

近ごろ物忘れが多い、老化の兆しだろうか。そんな心理の揺れを下五に捉えた。

健在を林檎に託し送らる、

(尾垂六区) 伊藤 幸枝

日頃の疎遠を詫び、無事息災の証しとなすかのように林檎が今年も送られて来た。

励ましを林檎に託し病む友へ

(木戸) 大谷 武彦

ご本復の一日も早くを祈り林檎を送る。友を想う心情が素直に伝わる。

評者吟

短評 椎名しげる

皮長く林檎を剥ける指の艶